

地域で考えるポロトの森の活用と保全

北海道森林管理局 後志森林管理署

一般職員 濱崎 ちさと

(元 胆振東部森林管理署)

北海道 白老町 農林水産課 主事 坂本 世悟



(左から坂本さん、濱崎さん)

○はじめに

胆振東部管理署では、平成24年7月から26年10月まで、北海道白老町にあるポロト自然休養林（以下、ポロトの森）の活用と保全について、地域関係者と協議会を設け取り組んできました。この取組について、平成26年に実施した休養林施設の利用者アンケート調査結果報告を中心に、総括・考察します。

○取組の背景・目的

平成23年11月、白老町と胆振東部森林管理署の共催により『「地域資源ポロトの森の将来」－活用から保全を考える－』というテーマで「第21回白老森林フォーラム」が開催されました。北海道大学観光学高等研究センターの敷田教授による基調講演では、自然保護と観光を両立させるエコツーリズムの視点からポロトの森の将来について考察をしていただきました。教授からは「ポロトの森を利用することで資源として実感し、かけがえのないものとして大切にできる。大切にするとすることは上手に利用して価値を高めることである。そのためには、まず町民がポロトの森をかけがえのないものとして認識することが大事」と、ご意見をいただきました。

その後のパネルディスカッションでは、森の利用状況のほか活用や保全について議論し、地元フォーラム参加者からも「利用者のマナー対策が急務」、「ポロトの森の情報発信を図りたい」等の意見が出され、「ポロトの森の活用と保全は関係者で取り組むことが必要」、「町民と森との関わりをもっと深めるべき」という提言も出されました。しかしその後、具体的な検討がなされていませんでした。

そこで、地域の資源としてポロトの森の活用と保全を検討するため、地域関係者の連携・協働を具体化することを目的に、胆振東部森林管理署の呼びかけで『「地域資源ポロトの森」パートナーシップ協議会』を発足させるに至りました。協議会は1年目で森の資源を洗い出し、2年目はその確認と活用の検討、3年目は協働により活用の実現を目指すという見通しで始まりました。



図1 第21回
白老森林フォーラム

「地域資源ポロトの森」パートナーシップ協議会の構成員は次のとおりです。

- ・白老町役場 建設課（林務担当）－情報の共有、施設整備等
産業経済課（観光）－情報の共有、誘客宣伝活動等
- ・一般社団法人 白老観光協会－イベント企画・運営、施設運営、誘客宣伝活動等
- ・自然ガイド団体（一樹会）－自然・歴史・生活文化等のガイドや啓発活動
- ・一般財団法人アイヌ民族博物館－アイヌ文化の伝承
- ・胆振東部森林管理署（協議会事務局）－公益を重視した森林管理

※オブザーバーには北海道大学の敷田教授をお招きしました。

○白老町及びポロトの森の概要

ポロトの森がある白老町は、札幌から南約90kmに位置しており、太平洋に面しています。「食材王国しらおい」とうたわれるように、黒毛和牛の白老牛をはじめ、たらこの生産など農林水産業を基幹産業としています。また、まちのあちこちに温泉が湧いており、ポロトの入り口にもモール温泉が湧出し、ポロトの森同様、ポロト温泉として地域の人に親しまれています。ポロトの森に隣接するアイヌ民族博物館では、ユネスコ無形文化遺産に登録されているアイヌ古式舞踊など、北海道の伝統文化に触れることができます。

国有林の多くは住宅街から離れた山にあります。ポロトの森は市街地近郊に所在しており、地元では「ポロト」や「ポロトの森」と呼ばれ、四季を通して町内外の方に利用されています。「ポロト」という名前は、アイヌ語で「大きい沼」という意味で、名前の通り森の入口には湖が広がっています。ポロトの森は、このポロト湖を含め面積約395haの森林で、昭和51年にポロト自然休養林に指定されています。「自然休養林」とは、優れた自然景観を有し、森林浴等森林レクリエーションに適した森林として、国民の皆さんに開かれている国有林です。

森林の構成は約5割がミズナラやカエデ等の天然林で、約3割がトドマツやエゾマツ等の人工林です。林内にはビジターセンター、キャンプ場・バンガロー、遊歩道等が整備され、白老町が整備し、指定管理者である観光協会が運営しています。

○取組の経過

◀◀ 1年目 資源の洗い出し・確認 ▶▶

ポロトの森のどこにどんな資源があるかを、季節ごとに協議会委員で現地へ赴くなどし、確認してきました。



写真1, 2 受け継がれるアイヌ文化
(上：イナウ納め、下：鶴の舞)

写真提供：一般財団法人アイヌ民族博物館



写真3 ポロトの森の施設

例) ミズバショウ、ホタル、紅葉、カンジキウォーク、ワカサギ釣り・・・など



写真4 ポロトの森の四季

この作業により、ポロトの森の魅力を確認できたほか、これまで地域関係者間でポロトの森に関わる情報共有ができていなかったこと、森の情報発信があまりされていないこと等の課題も確認できました。

<<< 2年目以降 資源活用の検討 >>>

多くの方にポロトの魅力を知っていただくため、どのような資源の活用や地域での対応ができるか協議会で検討を重ねました。「自然と(アイヌ)文化との関わりを学ぶ場」、「森林教室等体験学習の場」、「トレイルランニング(舗装されていない山などを走るスポーツ)」など、ポロトの自然と立地している環境を活かした取組案が挙げられました。具体的な取組を模索するなかで、オブザーバーの敷田教授から「すぐに新しいことを始めるのではなく、利用者の動向を知ることが取組の際の判断材料になる。協議会でアンケートを設計すれば、各機関の知りたい情報も得られる」とご提案いただきました。そこで、ビジターセンターの受付担当者と利用者の接点が多く、アンケートの回収率が高いと思われるキャンプ場・バンガローの利用者へアンケート調査を実施することにしました。

キャンプ場・バンガロー利用者アンケート調査

調査期間：平成26年6月28日～平成26年9月28日

有効回答：190件(回答率 約25%)

設問内容は利用者の状況、買物について(お金に関わるもの)、施設利用満足度の3つに大別されています。

◇◆利用者の状況◆◇



・利用者の7割以上が初めての利用で、リピーターが少ないことが明らかになりました。

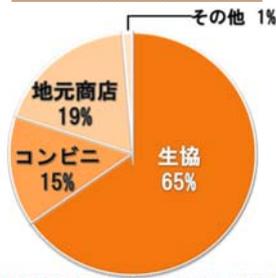
◆◆買物について◆◆

食材等キャンプで使用するものはどこで買いましたか？



<<<白老町内での買物は・・・>>>

利用したお店は？



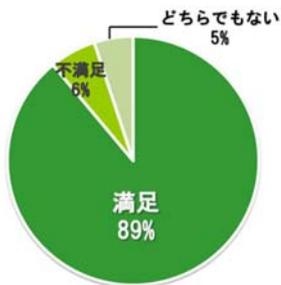
金額はいくらでしたか？



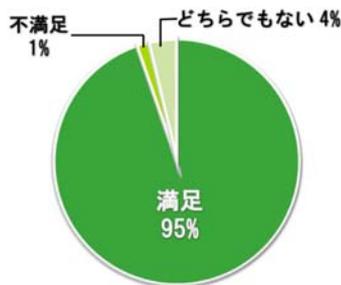
- ・白老町で一部、若しくは全ての買物をした利用者は7割近くありましたが、その内訳は、ポロトの森に近い生協やコンビニといった広域展開しているお店の利用が8割を占め、地元商店（スーパー、精肉店等）の利用は2割しかないことがわかりました。
- ・町内での平均購入単価は1人あたり1,350円で、キャンプの食材費と考えれば妥当な金額かもしれませんが、白老町の特産品である白老牛を考えた場合、少々割高なお肉なので、キャンプ場利用者にはあまり購入されていないのかもしれない。

◆◆施設利用満足度について◆◆

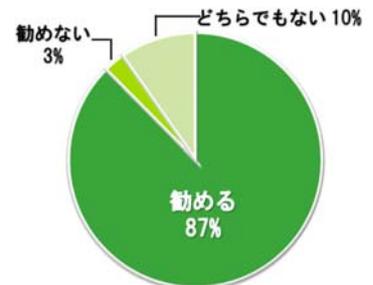
施設はいかがでしたか？
(野営場・バンガロー・炊事場・トイレ)



受付の案内等は
いかがでしたか？



ここの利用を知人に
勧めたいですか？



- ・施設について満足な理由は、「元からある木を残しているなど自然が豊かで静かである」、「清掃等の管理が行き届いており清潔感がある」という声がありました。しかし、「駐車場や炊事場等の各施設が宿泊施設から遠く不便だ」という声も見られました。
- ・受付の対応は他の項目に比べ特に満足度が高く、「親切な対応がよかった」という意見が多く寄せられました。不満の理由としては、「ゴミ処理・トイレの説明が足りなかった」という意見が寄せられました。
- ・「知人に利用を勧めるか」という質問でも、利用者の満足度を知ることが出来ます。約9割の人から知人に勧めたいと回答を得ました。勧めたくない理由としては「駐車場から各施設までが遠く不便である」という意見があった反面、なかには「人気になって欲しくないから取って他人には教えない」という意見もありました。

キャンプ場周辺で
お気に入りの場所を教えてください

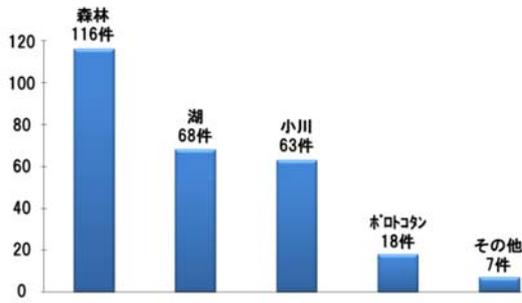


写真5 ポロトの森とその周辺にある資源

アンケートまとめ

アンケート調査により、これまで見えていなかった利用者の属性を把握することができました。ポロトの森は自然に囲まれた静かな環境を満喫できる点で高評価を得ていますが、キャンプ場利用者からは「駐車場が野営場、炊事場、トイレから遠く不便である」という不満の声が挙げられています。これはアンケート調査を実施する以前から利用者から多く寄せられていた意見でしたが、各施設が離れていることは、「自然をより身近に感じられる」、「駐車場を遠くに設定していることで交通事故の危険を減らす」という利点に転換できます。不満の声を欠点としてではなく利点としてPRすることで、利用者の森に対する印象をマイナスからプラスへ転換できるのではないのでしょうか。

そこで注目したのが受付対応の評価の高さです。ハードを充実させることにより利用者の満足度が上がることは想像出来ませんが、ソフト（管理人の対応）の充実により上記ハード面への不満の声をフォローすることで、利用者の印象の転換を図れると考えています。

町役場、観光協会としては、アンケート調査の結果から、今後白老町全体の魅力を広くアピールする動機付けを得られると考えています。今回の結果では、地域関係者が見込んでいた以上に、キャンプ場利用者の地元商店の利用が少ない実態が明らかとなりました。これについて地域がすぐにできることとして、キャンプ場利用者は時間の自由度が高く、かつ自家用車で来る場合が殆どだという状況を勘案し、その利用者に対し例えば町内各施設のパンフレットを配布する、それらで使えるクーポン券を更に広めるなど、地元商店の利用を積極的に勧める対応を考えています。

○成果と考察

取組の3年間で、地域関係者とポロトの資源の確認、アンケート調査の実施も含めた活用・保全の検討を行ってきました。1年目で確認された情報発信不足については、すぐに対応できるこ



図2 パンフレット「ポロトの森ガイド」
(上：表、下：裏)

ととして、ポロトのパンフレット「ポロトの森ガイド」を北海道森林管理局HPへ掲載する、各団体の協力を得て、町内外の駅や観光スポット等に置かせてもらいました。

協議会3年目では、森林教室等の実施、森林・山村多面的機能発揮対策交付金を活用した「遊々の森」協定が締結され、子どもから大人まで幅広い方々へ自然体験プログラムを実施し、自然環境への関心を醸成する取組がされています。

資源活用の検討を重ねる間にも協議会委員で毎年、北海道大学観光学高等研究センターの学生実習を受入れ、ポロトの森の活用と保全について、都市部に住む学生の鋭い考察を参考にさせていただいています。また役場は、道民自らの健康運動を推進する環境整備の一つとして北海道が認定する「すこやかロード」の整備、ポロトの森での自然体験活動の募集を一般団体向けに行うなど、町民のフィールド活動を見据えた取組を行っています。



写真6 学生実習の受入



写真7 すこやかロードへの認定
(平成25年9月)

ポロトの森の活用と保全の検討に地域関係者が協働して取り組む姿勢が構築されたことも、本協議会の成果のひとつです。発足前は地域関係者それぞれがポロトの森に関わっていたものの、その繋がりは線的なものでした。しかし、協議会で情報共有、意見交換を重ねることにより、その繋がりが面的なものになり、各事業やイベントへ相互協力するなど、各委員が積極的にポロトの森へ関わるようになりました。

今後、2020年には白老町ポロト湖周辺に民族共生の象徴空間であるアイヌ民族博物館等の一般公開が予定されています。今後はこの空間との関わりも見据え、活用と保全について検討する必要があると思っています。

アンケート調査については今後も継続し、利用者の声もポロトの活用等へ反映させる検討をしてきたいと思っています。

協議会は26年度で終了しましたが、協議会というかたちに囚われずとも、地域関係者と引き続きこの協働の姿勢を持ち続け、ポロトでの活動がスムーズに実施されるよう、積極的に支援してまいります。

より多くの方にポロトの森の魅力を知っていただくことで、一層大切に利用され続ける場所になっていくと思います。

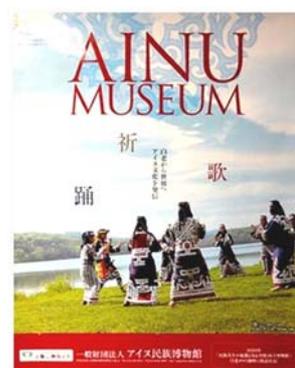


写真8
アイヌ民族博物館ポスター

